第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

(単付:円)

事 業 名	防火活動団体	支援事業			事業期間	平成	23年度 ~ -	- 年度						
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	2-5-1	他に関連する 基本事業						所管課係	予防課広報係
目的 (何のために実施する のか)	火災の予防と防火	火意識の高揚を図	る。		-			手段 (どのような方法で 実現するのか)	少年消防クラブ 親睦の為のレク!	及び婦人防火クラ レーションなどに	ブが実施する火災 対して補助金を交	{予防に関する研修 E付する。	多と啓発活動、社会	会奉仕の為のボランティア活動、
対象 (誰・何を対象として いるのか)	砂川市少年消防な る成人女性)。	フラブ(市内に居	住する小学校4年	生から6年生ま ⁻	での児童)及び砂川	市婦人防火ク	ラブ(市内に在住す	成果 (どのような効果が 得られるのか)	各クラブ員とその	の家庭、広報活動	を通して市民の防	5火思想の普及、高	高揚を図ることが^	できる。
事業開始時の状況 緯		児童の時から! 団体の活動に対 に増額した経過!	し補助金を交付して	啓発の必要性を てきたが、行政で	で図り、婦人に対し な革により平成12年	ても家庭内に 度にこれまで(おける防火意識の向 の12万円から10万円]上と地域住民への]に減額、平成17年	啓発を図り火災の 度には10万円から	の減少に努めるたら 69万円にそれぞれ	め、平成元年に婦 い減額している。?	引人防火クラブ、₹ また、少年消防ク	[≖] 成9年に少年消防 ラブについては会	クラブが設立された。これまで各 員の増により平成24年度に12万円

[DO]

実績

第1次実施3力年計画 第2次実施3カ年計画 第3次実施4力年計画 第4年次 第1年次 第2年次 第3年次 第5年次 第6年次 実施3カ年 第7年次 第8年次 第9年次 第10年次 実施4カ年 総合計画 実施3カ年 合 計 合 計 (6年度) 合 計 計 (3年度) (4年度) (5年度) (7年度) (8年度) (9年度) (10年度) (11年度) (12年度) 計画額 予算計上額 実 績 額 計画額 予算計上額 実 績 額 方 債 計画額 予算計上額 投 実 績 額 計画額 0 予算計上額 さ 実 績 額 一般財源 計画額 210,000 210,000 210, 000 630, 000 210,000 210,000 210,000 630, 000 210, 000 210,000 210,000 210,000 840.00 2, 100, 000 210, 000 予算計上額 210,000 210,000 210,000 630, 00 210,000 420, 000 実 績 額 210,000 210.000 210,000 630, 00 210,000 210, 000 840.000 計画額 210, 00 2, 100, 000 事業費合計 210, 000 210, 000 210, 00 630, 00 210, 000 210, 00 630, 000 210, 000 210, 000 210,00 210, 000 840, 00 予算計上額 210, 000 210,000 210, 000 630, 00 210,000 210, 000 420, 000 実 績 額 210, 000 210,000 210, 000 630, 000 210,000 210,000 840, 000 婦人防火クラブ 婦人防火クラブ 婦人防火クラブ 婦人防火クラブ 婦人防火クラブ 費 90.000円 90.000円 90.000円 90.000円 90.000円 少年消防クラブ 少年消防クラブ 少年消防クラブ 少年消防クラブ 少年消防クラブ 事業費予算の の 120,000円 120,000円 120,000円 120,000円 120,000円 内容 推 前年度同額 前年度同額 前年度同額 前年度同額 前年度同額 前年度予算と の比較 (増減理由) 同額 同額 同額 実績との比較 (増減理由)

ŧ	標の推	移・評価															
ž	動指標	1 (「手段」 を	をもとに設定)	指標名:年間活動	動数		指標の求め方: 防	が火活動団体の年	間活動回数								
J.	果指標	1 (「成果」を	をもとに設定)	指標名:平均出戶	席率		指標の求め方:出	岀席者数÷会員数	× 100								
					第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 力年計画			第	3次実施4力年記	十画		第 7 期
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
	指	活動指標 (単位/回		15 10		15 11		15 14	10	15		15	15	15	15		
	標	成果指標		55		{		70		80		85	90	95	100		
		(単位/%	八根區	51	44	57		66									
			をもとに評価)				あまり達成されていない										
		事業の成身 (成果指標	果 『をもとに評価)				あまり上がってい ない										
		事業の効率	率性 三対する成果)				あまり上がってい ない										
		総合評価					普通である										
	事務事業評価	理 σ.	総合評価の判断	実歴開型ス注のきでなか事がをて新ル慎標づ状し利の施いで実法、いるでは、画つるらいは来まります。大に指しているが、は、いるでは、国のをでなか事で実な、では、ないでは、いるでは、ないでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、い	ル実業業催を冬行席右あ催るのか、大変を事事開夫、る出左が開す標づない、関本ので、は、て、ど、で、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、の	ル行制染てりイのが止頃と加今向索が比較がした、というでは特別であるる防たる増高のでは、対して、というでは、対して、は、対して、は、対して、は、対して、は、対して、は、対して、が、対して、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が	新ル及た動よ研実中実外実施の大の連に、に を屋を共って然め、る啓等出感しです。 でいる	ル類拡防維つ発実てとでに値き容検い向水質拡防維つ発実でとでに値き容検い向感が体つの態が体つの態が体つの態が体つの態が体のでいいでは、上の感が体のに少動数るにあ席の時間を成をの感が体つの修や指しまが、 いまの は 原 は いい は 原 は 原 は 原 は 原 は 原 は 原 は 原 は		自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今後の方向	向性				現状のまま継続										
				R5:	ボ のぶけまえがエ	2×1-+> 7 m ===1	団体にしても感	R8 :			II.	R10 :				ı	
	改善	性の判断理 、改革の内 、R8、R10)	容	染対策を実施した を促し、各種団の	ずつではあるが活ながら各種行事を ながら各種行事を 体との協力体制を 交流を実施してい	回復させ、より多 構築し積極的な火	くの会員の参加										
	(No	(NO(N10)															

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	火災予防推進	事業			事業期間	平成	23年度 ~ -	- 年度						·
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-1	他に関連する 基本事業						所管課係	予防課広報係
目的 (何のために実施するのか)	火災の予防と防り	火意識の高揚を図	る。		-			手段 (どのような方法で 実現するのか)	広報用資器材を値	吏用した展示や啓	発活動、事業所へ	の避難訓練等の排	旨導、火災予防に [関する研修会や広報活動を行う。
対象 (誰・何を対象として いるのか)	一般市民、防火區	团体、市内事業所	など					成果 (どのような効果が 得られるのか)	市民の防火防災別図られる。	舌動に対する理解	が深まるとともに	、防火意識が高す	ドり火災発生の抑 制	制及び災害発生時の対応力向上が
事業開始時の状況 緯	・これまでの経	在、防火団体数厂	降は消防法に基づく は増加し、防火防災 児童等の防火の啓発	協力会、砂川均	也区防火安全協議会	きたが、火災 、防火団体連	予防啓発の一環とし 絡協議会等が協力し	て、昭和45年に町 ながら活動を行っ	内会単位による際でおり、防火ので	方火協力会の設立 つどいについては	(平成30年に防火 令和元年度で49回	防災協力会に名称 の開催を数え(令	「変更)と「市民队 な和2年~4年は新型	5火のつどい」が初開催される。現 型コロナウイルスの影響で中止して

[DO]

実績

					第1次実施	3カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年計	·画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
	国 費		画額				0				0					0	0
			計上額				0				0					0	0
			績 額				0				0					0	0
	道費		画額				0				0					0	0
			計上額				0				0					0	0
			績 額				0				0					0	0
:	地 方 債	計	画額				0				0					0	0
投		予算	計上額				0				0					0	0
12		実	績 額				0				0					0	0
入	その他	也 計	画額				0				0					0	0
		予算	計上額				0				0					0	0
さ		実	績 額				0				0					0	0
h.	一般財源	計	画額	162, 000	162, 000	162, 000	486, 000	242, 000	242, 000	242, 000	726, 000	242, 000	242, 000	242, 000	242, 000	968, 000	2, 180, 000
		予算	計上額	160, 000	187, 000	187, 000	534, 000	242, 000	242, 000		484, 000					0	1, 018, 000
<i>†</i> =		実	績 額	74, 000	71, 000	37, 000	182, 000	66, 000			66, 000					0	248, 000
事	事業費合計	+ 計	画額	162, 000	162, 000	162, 000	486, 000	242, 000	242, 000	242, 000	726, 000	242, 000	242, 000	242, 000	242, 000	968, 000	2, 180, 000
7		予算	計上額	160, 000	187, 000	187, 000	534, 000	242, 000	242, 000	0	484, 000	0	0	0	0	0	1, 018, 000
業		実	績 額	74, 000	71, 000	37, 000	182, 000	66, 000	0	0	66, 000	0	0	0	0	0	248, 000
費の推	事業費予算の 内容			食糧費 66,000 車借上料	消耗品 47,000 報償費 30,000 食糧費 66,000 車借上料 44,000	消耗品 47,000 報償費 30,000 食糧費 66,000 車借上料 44,000		食糧費 66,000 車借上料 44,000	消耗品 89,000 報償費 30,000 食糧費 66,000 車借上料 44,000 原材料 13,000								
14	前年度予算と の比較 (増減理由)	:		前年度同額	「市民防火のつ どい」送迎用バ ス借上料 台数 増及び単価増の ため	前年度同額		消耗品費・原材 料費の増	前年度同額								
:	実績との比較 (増減理由)			新型コロナウイ ルス感染症の拡 大により「市民 防火のつどい」 中止による減	ルス感染症の拡 大により「市民 防火のつどい」	ルス感染症の拡 大により「市民		感染症拡大防止 及び消防内の出 動体制維持ため 「市民防火のつ どい」中止によ る滅									

動指標	1 (「手段」	をもとに設定)	指標名:火災予	防広報活動数		指標の求め方:瓜	太報活動件数									
果指標	1 (「成果」	をもとに設定)	指標名:火災発:	生件数		指標の求め方:ク	火災発生件数									
				第1次実施	3 力年計画			第2次実施	3 カ年計画			9	第3次実施4力年記	十画		第 7
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計合
44-	活動指標 (単位/匝		20	20	20		20 16		20		20	20	20	20		
指標	成果指標	人根但	10	5	4		3	2	1		0	() (0		
	(単位/作		4	8	5		2									
	事業の達 (活動指標	成度 漂をもとに評価)				あまり達成されていない										
	事業の成 (成果指標	:果 漂をもとに評価)				あまり上がってい ない										
	事業の効(事業費)	率性 こ対する成果)				あまり上がってい ない										
	総合評価					普通である										
\$	1	総合評価の判断 理由または指標	にこにと各体にし市意が和年ナ症めがしし、実と定な防、積極了民職つで度対小防と後業にもけたお力業にこ火上るや型ス止し継美のでりたお力業にこ火上るや型ス止し継美的でりたが力業にこ火上るや型ス止しも生を防でりたが力業にこ火上るや型ス止しも差を防た民事、一等加で災撃令和口染た続高が大民事、一等加で災撃令和口染た続高が大民事、一等加で災撃令和口染た続高が大民事が大きない。	どにこにと各体にし民識が和5ロ染5類対い止い実と定な防、積でののっ2年ナ拡類相策ると」はしまして協事的ら吹上い度はイ防行時継とったお力業にい防にる~新ル止後の続かたでは事から吹りで、一般では、一般であると、一般では、一般である。	い団にしよので口染中令5消めしりな入向る年に超め、は、積も防上たつ大と5に体染い複替でにより向き大が上れる情報があったり、かし持は針小を意と変としていたとり、は、大きのでは、ル上りをしたったとり、は、大きのでは、ル上りをしたいたけは針小を意と変と対していたりをしていたが、大きの事がの神楽が画る層になった。	の加で発が野ない。体的制というない。体的制とのような、のようなでは、のようではなり、のようのでは、のまりのでは、のは、のまりのでは、のはでは、のはでは、のまりのでは、のはでは、のはでは、のはでは、のはでは、のはでは、のはでは、のはでは、	ル類染消観火止市主ン広す民意めな向い類染消観火止市主ン広す民意めな向いの、感行のはいたが保証を発して動というでいる。音、な持民はが体がなのとや催りに活こけの今及活動といいのである。というでは、からのでは、からいのでは、からいないが、からいのでは、からいないないが、からいないないないが、からいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな		自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
改善	今後の方 性の判断理 、改革の内 、R8、R10	里由	加する等、協力	ト、各種団体が開 体制を強化し連携 への火災予防啓発	を深めることで協	引力関係が構築さ	R8 :				R10 :					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

[PLAN]

事務事業の目的と成果

	総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--	--------	---	--------	---

事 業 名	事業所立入核	査及び防火安	安 全指導事業		事業期間	平成	23年度 ~ -	- 年度				•		
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-1	他に関連する 基本事業						所管課係	予防課予防係
目的 (何のために実施するのか)	火災の予防と防火	火意識の高揚を図	る。					手段 (どのような方法で 実現するのか)	各事業所、学校等	等への立入検査を	実施し、消防法令	↑違反があれば指導	算し改善を求める 。	,
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市内事業所、学村	交等。						成果 (どのような効果が 得られるのか)	消防法令に適合し	した事業所や公共	施設等が増える事	『で、火災を未然 [に防ぎ、また火災	発生時の被害抑制に繋がる。
事業開始時の状況緯		消防法が昭和2 火災発生危険防」	26年に公布され、翌 止及び火災発生時 <i>の</i>	225年に砂川町り)被害抑制のため	v災予防条例が制定 か、消防法令遵守の	された。 理念のもと、:	各事業所等の防火査	察を効率的に実施	iしている。					

[DO]

実績

		第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年計	画		第 7 期
	第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	第 7 期総合計画
	(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
国 費 計画額				0				0					0	0
予算計上額				0				0					0	0
実績額				0				0					0	0
道 費 計画額				0				0					0	0
予算計上額				0				0					0	0
実績額				0				0					0	0
地 方 債 計 画 額				0				0					0	0
投予算計上額				0				0					0	0
実績額				0				0					0	0
入その他計画額				0				0					0	0
予算計上額				0				0					0	0
美 積 額				0				0					0	0
れ一般財源計画額				0				0					0	0
予算計上額 宝 縛 類				0				0					0	0
大帆帜				0				0					0	0
事業費合計 計 画 額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予算計上額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業 実績額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
費														
事業費予算の														
の内容														
144														
推														
移														
前年度予算との比較														
(増減理由)														
								1					1	
実練しの比較														
実績との比較 (増減理由)														

·T #	TH-THE T			16.18.7 ± 3.10.9	F *L		*******	L1 W++/- +	- *L								
		(「手段」をも		指標名:立入検査			指標の求め方:立			1 BL 1 1 6 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4		400					
成集	指標 1	(「成果」をも	とに設定)	指標名:不備があ	あり指導した防火	对家物致	指標の来め方:	(防火对家物数-	小備かあり指導し	た防火対象物数)÷防火対象物数	× 100					
					第1次実施	3カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年記	計画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
		活動指標 1	計画値	35	35			35	35	3!	5	35	35	35	35		
	指	(単位/回)	実績値	4	88			94									
	標	成果指標 1	計画値	70	72			76	78	80	0	82	84	86	88	3	
		(単位/%)	実績値	20	70	73		77									
		事業の達成度 (活動指標を					達成されている										
		事業の成果	остентш/														
		(成果指標を	もとに評価)				上がっている										
		事業の効率性	ŧ				1.18										
		(事業費に対	する成果)				上がっている										
		総合評価					良好である										
				自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
							令和3年度と比 較し、令和4年										
				ルス総条延拡入 防止から、違反	着300㎡以上の	ルク窓呆扱人的	段は活動指標及	音が入さい不符									
				が継続している	特定防火対象物	び高齢者福祉施	び成果指標共に	出入りする集会									
				事業所に数を絞	を対象に立入検	設等への立入検	大きく上昇して	施設、医療機関									
				り立入検査を実	査を実施した。	査は実施せず、	いるため。	及び飲食店、避									
_				施した。活動、 成果指標共に計	(新型コロナワ	火気使用機会の		難困難な高齢者 福祉施設を中心									
事	=π	評		画値を下回る実	防止から、病院	店舗を中心に立		に立入検査を実									
		一		績値となるた	及び高齢者福祉	入検査を実施し		施した。									
務	内			め、補完として				成果指標の実績									
,,,,	容	<i>4</i> 12 A	== /= 0 \u/10 \u/10	火災被害の大き	成果指標の実績	成果指標共に前		値も計画値の近									
		総合理由	3評価の判断 コキたけ指揮	い事業所に防火 啓発文書を発送	他も計画他の処	年度を工凹る美 結値とかり 繰		似値となり、昨 年度の立入検査									
事		の実	2.結値に関す	したが、直接指	年度と比較し直	り返しての直接		結果と比較し直									
		る自	己分析	導と比較し効果	接指導による効	指導による違反		接指標による効									
業				を実感し難い部 分があるため、	果を実感した。	改善率の高さを		果を実感した。 今後も実績値向									
*				がかめるため、 感染防止に留意	ラ 仮も夫根胆円	夫悠、引き続き		ラ後も美棋値向 上を目指し取り									
				し立入検査実施		指し取り組んで		組んで参りた									
評				数を増やして参	い。	参りたい。		い。									
				りたい。													
価																	
Щ																	
		今後の方向性	ŧ				現状のまま継続										
				R5 :			3. 3. 4.4.2.	R8 ·				R10 :				1	
					レス感染拡大防止	から、近年は立入	検査を制限して	NO .				K10 .					
				文書による指導を	を主としていたが	、文書による指導	のみでは効果を										
						火災時に被害が大	きくなる防火対										
				象物に的を絞りΣ 立 λ 検査による値		た。 被害、火災予防及	パ違反改差の重										
	七点。	生の判断理由				版書、大火アの及 、成果指標の実績						1					
		世の判断理田				ても現状のまま継						1					
	(R5.	R8、R10)		l								1					
				l								1					
				l								1					
				l								1					
												1					

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	住宅用火災警	報器普及推進	基事業		事業期間	平成	23年度 ~ -	- 年度						
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-1	他に関連する 基本事業		-				所管課係	予防課予防係
目的 (何のために実施するのか)	一般住宅における	る火災発生時の早	期発見、避難の迅	速化、住宅火災	こよる死傷者の減少	〉を図る。		手段 (どのような方法で 実現するのか)	各種広報紙、ホー	-ムページ、家庭	訪問、街頭啓発な	どによる広報活動	かを行う。	
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市内在住者							成果 (どのような効果が 得られるのか)	住宅用火災警報器	器の必要性につい	て市民の理解が深	まり、設置が促進	≛される 。	
事業開始時の状況 緯	・これまでの経	近年、住宅火災で て平成23年5月ま	での死傷者が増加 I での設置が義務付	ン、死傷者防止タ けられたことか	対策の一環として、 ら、既存の住宅への	平成18年6月に D住宅火災警報	二消防法が改正・施? 段器の設置率100%を	行され、新築住宅/ : 目指し、普及活動	への住宅用火災警 を実施する。	報器の設置が義務	る付けられた。また	た、既存の住宅に	ついては砂川地区	広域消防組合火災予防条例におい

[DO]

実績

		第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	63カ年計画			第	3次実施4力年計	一		第 7 期
	第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
	(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
国 費 計画額				0				0					0	0
予算計上額				0				0					0	0
実績額				0				0					0	0
道費計画額				0				0					0	0
予算計上額				0				0					0	0
実績額				0				0					0	0
地 方 債 計 画 額				0				0					0	0
投 予算計上額				0				0					0	0
実績額				0				0					0	0
入その他計画額				0				0					0	0
予算計上額				0				0					0	0
実 績 額				0				0					0	0
れ 一般財源 計画額				0				0					0	0
予算計上額				0				0					0	0
大 恨 银				0				0					0	0
事 事業費合計 計 画 額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予算計上額 業 実績額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業 実績額	(0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
費														
事業費予算の														
の内容														
推														
移前年度予算と														
の比較														
(増減理由)														
実績との比較 (増減理由)														
(増減理由)														

Ħ	標の推	移・評価															
污	動指標	1 (「手段」	をもとに設定)	指標名:広報活動	動数		指標の求め方:広	公報活動回数									
反	果指標	1 (「成果」	をもとに設定)	指標名:警報器	設置率		指標の求め方:警	警報器設置世帯数	· 全警報器設置対	†象世帯数×100							
					第1次実施	・ 3カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年記	計画		第 7 期
				第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
	指	活動指標(単位/[30 8	30			30 25	30	30		30	30	30	30		
	標	成果指標		90. 3				90. 6	90. 7	90. 8	3	90. 9	91.0	91. 1	91.2		
		(単位/	八根に	90. 9	92.3	93. 0		93. 2									
			標をもとに評価)				あまり達成されていない										
			標をもとに評価)				上がっている										
		事業の対]率性 に対する成果)				上がっている										
		総合評価	i				極めて良好である										
	事務事業評価		総合評価の判断 理由または指標 の実績値に関す る自己分析	ル大報なPシカ置火事置いあ普活及置維の行えに等かや、会宅災業率つっ及動率世持広って、下が防にへ警ののたた促をの帯管報で勢り実た火火よの報効向成。進継向の理活い、可な名性累上果今の続出上適の動く、ラ災未宅までとが後広し、切たをこう災未で表でとが後にし、切たをは、対したをは、対したが、の頭出、対したが、対したが、は、対したが、対したが、は、対したが、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、が、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、は、対したが、対したが、対したが、対したが、対したが、対したが、対したが、対したが	とあかまで、 とのでは、 いっな動率では、 切った。 進継向のでは、 切ったのでででは、 切ったのでででは、 切ったのででは、 切ったのででは、 切ったのでは、 しょうには、 しょうにはない。 しょうにはない しょうにはない。 しょうにはない しょうにはない しょうにはない しょうにはない しょうにはない。 しょうにはない しょくにはない しょ	症し制と動るHIラ活災事りは置の警や懸「がた維接は。 アメリカ でいる 眼行市、よ住器効率の置込務年の具も効気が持す制現やEにや報の置込務年の具のながらしていた。 とは器効率の化経電合あなに、 は、	ル及策の施たペレしにま協で施か災業式給設どたスぴと啓はが一I火努た力の出ら警、簡重置効の感し発出、ジN災め、会研来、報工易業率果感染て活来ホやE予て防で修な住器ア消をのが、動な一市を防き火は会い宅生支ゾ火実向あれ近社啓た防対がこ用給一器施上った話をたいがが、開発一器施上ったは高いでは、対域のかム公活啓た防対がこ用給一器施上った対人実っ、式用発。災面実と火事ル支しな大対人実っ、式用発。災面実と火事ル支しな	会災人でび報活まや防にへ警等率た、住器動所的以上でいる。 等数、住器動所的以上の報の向と、 にい、用普努現チ災未宅支果が後 はでいて、大阪る住器対した。 が、大阪の代ラ協設用が終めている、 が、大阪の代ラ協設用が を大阪の代ラ協設用が を大阪の代ラ協設の が、人ので、 大阪ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今後の方	i向性				現状のまま継続										
				R5: 胜业胜《******	- トスケウ田ルベ	数和型士公古参に	- 広苗老夕粉に L	R8 :				R10 :				<u> </u>	
	改善	性の判断 、改革の 、R8、R10	内容	り抽選形式、エア 間で配布完了する く方針である。ま を図りたい。広報 住宅用火災警報報	によくな住宅用という。 は、大学のでは、 でいると でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるで、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でい。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でい。 でいるで、 でいるで。 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でい。 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でい。 でい。 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でい。 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でい。 でい。 でいるで、 でいる。 でいる でい。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる	器支給事業は先着 今後も予算の範囲 研修会などでも積 ページや市公式し け、設置義務化か	順で配布、数日 内で継続してい 極的に普及推進 INEを活用し ら10年以上経										

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

令和5年度 ~ 令和5年度

事業期間

[PLAN]

事務事業の目的と成果

事業名 消防情報指令室高度化事業

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事業性質区分	新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-2	他に関連する 基本事業						所管課係	救急通信課通信係
目的 (何のために実施する	これまで皆無に り電話以外によ	等しかった外国人 る通報手段への需	からの通報が散発 要が高まっている	している。また ことから確実に	ドへの関心の高まり、各種コミュニケー 緊急呼を受報し、近 性と安心感を提供す	-ションツール d速な発災ポイ	の急激な普及によ	(どのような方法で	員による専門化	通訳・文字情報相・専従化。現在導 レ等の費用対効果の	入している高度緊	急通信指令システ	ムの維持。新規	。再任用職員及び会計年度任用職 通信会社参入への対応及び回線の 別。
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市内在住者(高齢	者・避難行動要す	を援者を含む)・来	訪者				成果 (どのような効果が 得られるのか)	市内在住者、来記感の提供。まちん		動要支援者の被災	時における被害の	9軽減。市内生活	・来訪における高い安全性と安心
事業開始時の状況 緯		機材である。					家働により劣化が進る状況。設置から10				通報の受理に支障	をきたすこととな	り人命に直結する	らことから、計画的に更新を要する

[DO]

実績

					第1次実施	3 力年計画			第2次実施	3 力年計画			第	3次実施4カ年記	十画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
	国	費					0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	道	費					0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地	方 債					0		145, 900, 000		145, 900, 000					0	145, 900, 000
投			予算計上額				0		126, 700, 000		126, 700, 000					0	126, 700, 000
			実 績 額				0				0					0	0
入	そ	の他				26, 467, 000	26, 467, 000		154, 100, 000		154, 100, 000					0	180, 567, 000
₹			予算計上額			0	0		132, 564, 751		132, 564, 751					0	132, 564, 751
			実績額			0	0				0					0	0
れ	— 船	设 財 源				26, 894, 000	26, 894, 000				0					0	26, 894, 000
+-			予算計上額			0	0		5, 249		5, 249					0	5, 249
た			実績額			0	0				0					0	0
事	事業	費合計		0	0	53, 361, 000	53, 361, 000	(300, 000, 000	0	300, 000, 000	0	0	0	0	0	353, 361, 000
			予算計上額	0	0	0	0	(259, 270, 000	0	259, 270, 000	0	0	0	0	0	259, 270, 000
業			実績額	0	0	0	0	(0	0	0	0	0	0	0	0	0
費	事業	費予算の							備品購入費 259, 270, 000円								
の ##	ı	内容															
推移									長期計画に基づき当該年度に事								
	σ	度予算と)比較 減理由)							業実施(単年度事業)								
		との比較 減理由)				機器の状況から 延長使用可能と 判断し次年度持 越し。					_						

指標の打																	
		(「手段」をもと			防情報指令装置台 法情報指令装置台		指標の求め方:夏										
成果指標	票 1	(「成果」をもと	:に設定)	指標名:更新消息	防情報指令装置台		指標の求め方:夏	見新した消防情報				III.					
				第1年次	第1次実施	第3年計画 第3年次	tht o t t	第4年次	第2次実施第5年次	第6年次	The color	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	D + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	第 7 期総合計画
				第1年次(3年度)	(4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次(9年度)	第 8 年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	(12年度)	実施4カ年 合 計	合計
		舌動指標 1	計画値	0	0	1		0	0		0	0	0	(0		
‡	-	(単位/台)	実績値	0	0	0		0									
村	崇	或果指標 1 (単位/台)	計画値	0	0	1		U	0		0	0	0	(0	0	
		(半四/日/ 事業の達成度 (活動指標をも	実績値	U	U	U	達成されていない										
	Poli	活動指標をも 事業の成果 (成果指標をも					変わらない										
	loft	事業の効率性 事業費に対す					変わらない										
	-	(事業員に対す 総合評価	る!以本/				普通である				-						
事務事業評価	西内	の実績	評価の判断 または指標 靖値に関す	やーズは対でが新状にと機利視・ソスは対でが新状でと機利でも、が況変き具画要ありる選源前で不計必が表です。定等により、が況変もでは、から、では、から、から、から、から、から、から、から、から、から、から、から、から、から、	やーズは対のの一でで囲 というでは対のでが新述されていた。 がある合いででいたががいたがいた。 でででいたがいたがいたががいたがいたがいたができる。 でででいたがいたがいたがいたが、からいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	や一ズは対でが新状にと機利視・インな現等を応の、が況変考種なし、外等等軽応の、が況変考種なしまい、で、計で、対し、機可で、対し、機可で、対し、機可で、対し、で、対し、が、で、対し、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、	に方向性を決める必要がある。	達ら返た線部可規をはいる。 にもし、廃機避にもし、廃機避にをとってアルに関する。 でいいは、 でいいは、 がりま回ー不大す		自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
	-	今後の方向性					現状のまま継続										
改	善、	の判断理由 改革の内容 R8、R10)		なったため、外 ら、指令台の更 区広域消防事務	ルス感染防止にに いる変更所やできまい。 いる変更を表現のでは いるでは いるでは いるでは いるでは いるでは いるでは いるでは いる	間の接触の回避を ない状況となった 同運用の打診があ	実施したことか :。また、滝川地 ったことから、	R8 :				R10 :					

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	消防庁舎屋上	防水・屋根外	卜壁整備事業		事業期間	令和 5	5年度 ~ 令	和5年度						<u> </u>
事業性質区分	新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-2	他に関連する 基本事業						所管課係	警防課警防係
(何のために実施する	消防庁舎が建築さ 低下が懸念される の低下を防ぐ。	されて27年が経過 らが、この事業に	し防水加工も経年? おいて防水加工や!	お化により効果が 量根工事をする ・	- が低下し雨漏りが角 事により、万全の消	É生することが 肖防体制を維持	あり、建物強度の し、住民サービス	手段 (どのような方法で 実現するのか)	施工業者に実施し	してもらい定期的	にメンテナンスを	そ行い寿命を延ばす	T.,	
対象 (誰・何を対象として いるのか)	消防庁舎屋上防水	く・屋根外壁。						成果 (どのような効果が 得られるのか)	万全な消防体制の	の維持、大規模修	繕の回避。			
事業開始時の状況緯	・これまでの経	平成4年建築の消	防庁舎は、築30年	が経過。屋上防	水並び外壁に劣化な	が見受けられる	。長寿命化を図る	ため、計画的なメン	ンテナンスを要す	る状況。				

[DO]

実績

					第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3カ年計画			第	3次実施4カ年計	画		第 7 期
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
	国	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	道	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地 方	債	計画額				0				0					0	0
投			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
入	その	他	計画額				0				0					0	0
à			予算計上額				0				0					0	0
-			実績額				0				0					0	0
れ	一般身	財源	計画額			8, 000, 000	8, 000, 000	6, 501, 000			6, 501, 000		37, 235, 000			37, 235, 000	51, 736, 000
			予算計上額			0	0	6, 501, 000			6, 501, 000					0	6, 501, 000
た			実績額			0	0	6, 105, 000			6, 105, 000					0	6, 105, 000
事	事業費	合計	計画額	0	0	8, 000, 000	8, 000, 000	6, 501, 000	0	0	6, 501, 000	0	37, 235, 000	0	0	37, 235, 000	51, 736, 000
			予算計上額	0	0	0	0	6, 501, 000	0	0	6, 501, 000	0	0	0	0	0	6, 501, 000
業			実績額	0	0	0	0	6, 105, 000	0	0	6, 105, 000	0	0	0	0	0	6, 105, 000
費								工事請負費									
具	事業費予	る 笛 の															
の	争未复 · 内容	学品の															
144		-															
推								77 A - A A A A A A A A A A A A A A A A A									
移								延命可能と判断し実施計画を持									
	前年度予 の比							ち越していた									
	(増減理							が、一部早急な修繕箇所が確認									
	(-0.11%-2	147						修繕箇所が催認 され実施。									
						庁舎本体の現状		入札減			1					II.	
	中华人	D LL ##				評価の結果、延		7 (10//24									
	実績との(増減理	リ比較				命可能と判断し											
	(-B#X-2					計画を次年度持 越しとした。											

方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)

活動指	旨標 1	(「手段」	をもとに設定)	指標名:改修消	防庁舎数		指標の求め方:こ) 後工事を行った	消防庁舎数								
成果排	旨標 1	(「成果」	をもとに設定)	指標名:改修消	防庁舎数		指標の求め方:	改修工事を行った	消防庁舎数								
					第1次実施	3 力年計画			第2次実施	も3カ年計画			<u>*</u>	第3次実施4カ年記	計画		第 7 期
				第1年次(3年度)	第2年次(4年度)	第3年次(5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次(7年度)	第6年次(8年度)	実施3カ年合計	第7年次(9年度)	第8年次(10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	総合計画合計
		活動指標	1 計画値	1 1 1 2 2 1	(4年度)	(5年度)	п	(0年度)	(7年度)	(0年度)	0	(9年度)) (日年度)	0 (12年度)	п п	
	指	(単位/村			0	0		1									
	標	成果指標 (単位/ホ		(0	1		0	()	0	C) (0 (0		
-		事業の達	人根尼	(0	0		'									
			票をもとに評価)				達成されていない										
		事業の成 (成果指	:果 漂をもとに評価)				変わらない										
		事業の効 (事業費)	率性 こ対する成果)				変わらない										
		総合評価	i				普通である										
事務事業評価	評価内容		理由または指標	外クれ無に専調階の模繕で過渡かりれ無に専調階の模様では年で、という対量で者より、は急るが長る的では、要、地がし、要、地がし、のが長るが、関では、では、では、では、関係をは、関係をは、関係をは、関係をは、関係をは、関係をは、関係をは、関係を	自外外クれ無に専調階の模繕で過渡か業がおり入れ無に専調階の模繕で過渡か業があくり製屋で者よ浸に早すいます。となると、で度見等防市見現危機をは年っらをあるな民会のはるものり水危急のが長れなが、期こに必必は離上ものり水危急なが長名的るのはならは水内分段機い修況経にと事要ではならは水内分段機い修況経にと事要	て度見等防市見現危無な状判面部分をはならは水内分段である。本書と表によって、大りが、つまにはないのでは、つりが、つまではない。大りではないではないでは、ついでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	り形らにも化り内なし体めれている。 東京 本学 できまれる できまる 大小至のは 楽韻。 制る。 の い の い の い の は の は の は の は の は の は の は	部修し部外外外クれ無にいる。にに上ッが、っなのに上ッが、っなり製屋でものいっ軽しまりが、ったり製屋でものできたが、できたが、できたが、できたが、できたが、できたが、できたが、大きにはならは、大きにはならは、大きにはならは、大きにはないのできたが、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには		自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今後の方	向性				現状のまま継続										
		R5: 職員による配管清掃、雑草除去等により凌いではいるが発生することもあり、防水及び建物強度の低下は引れる状況である。万全な消防体制時のため、計画的に必要がある。						R8 :				R10 :					

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 〇

事 業 名	消防車両更新	・増強事業			事業期間	令和3	3年度 ~	令和12年	度					•	
事業性質区分	新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-2	他に関連す 基本事業	「る						所管課係	警防課機械係
目的 (何のために実施するのか)			水火災又は地震等 減し、これによる		- の生命、身体及び財 適切に行う。	才産を保護する	0	手段(どのよ	うな方法で	検討委員会を随即必要に応じ老朽耳			含む消防体制の均	曽強・最適化を進ん	უ გა.
対象 (誰・何を対象として いるのか)	砂川市内居住者、	来訪・滞在者						成果 (どのよ 得られる	うな効果が	水火災又は地震等 災害の防除と被害		の生命、身体及び	が財産を保護 。		
事業開始時の状況 緯	・これまでの経	砂川消防設立当 今後も市民の生命	切から、消防車両に 命・財産を守ること	こついては消防の こを目的とし、消	D責務を遂行するた 肖防体制の充実強化	め不可欠な資 を図るため消収	機材であり、i 方車両の適切 ⁷	耐用年数を経: な更新・整備	過した車両 を行 う 。	うがない でき できない でんぱい でんしょう でんしょう かいしょう でんしょ かいしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい しゅう かいかい しゅう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	帯を行ってきた。	また、建築物の多	様化や地域特性等	Fを考慮し、随時 ^は	曽強も行ってきた。

[DO]

実績

				第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4カ年計	画		第 7 期
			第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画合計
			(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	
	国 費	計画額			11, 587, 000	11, 587, 000				0		15, 000, 000			15, 000, 000	26, 587, 000
	-	予算計上額				0				0					0	0
l l		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額		18, 700, 000		34, 300, 000		5, 000, 000	30, 000, 000	35, 000, 000	20, 000, 000	26, 000, 000	10, 000, 000	19, 000, 000	75, 000, 000	144, 300, 000
投		予算計上額		0	42, 400, 000	42, 400, 000				0					0	42, 400, 000
		実績額		0	41, 100, 000	41, 100, 000				0					0	41, 100, 000
入	その他	計画額		14, 100, 000		14, 100, 000		5, 000, 000	30, 000, 000	35, 000, 000	20, 000, 000			19, 000, 000	39, 000, 000	88, 100, 000
خ		予算計上額		0		0				0					0	0
		実績額		0		0				0					0	0
れ	一般財源	計画額		4, 229, 000	34, 000	4, 263, 000				0					0	4, 263, 000
_		予算計上額		0	25, 000	25, 000				0					0	25, 000
た		実績額		0	37, 500	37, 500				0					0	37, 500
事	事業費合計	計画額	0	37, 029, 000	27, 221, 000	64, 250, 000	0	10, 000, 000	60, 000, 000	70, 000, 000	40, 000, 000	41, 000, 000	10, 000, 000	38, 000, 000	129, 000, 000	263, 250, 000
		予算計上額	0	0	42, 425, 000	42, 425, 000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42, 425, 000
業		実績額	0	0	41, 137, 500	41, 137, 500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41, 137, 500
費					高規格救急車 1			令和7年度予算								
具	事業費予算の				台 備品購入費			計上なし(更新 延長のため)								
の	事未負で昇の 内容				珊 品牌 八頁 42,425千円			進長のため)								
					, , , , , ,											
推																
移			更新車両の見直 しによる減	増減なし (更新車両予定	R4更新予定の大 型水槽車R6以降		高規格救急車整 備完了による減									
	前年度予算と		しによる派	車両の延長使	全水信車N0以降 へ延長		開元 」による派									
	の比較 (増減理由)			用)	R5計画どおり高											
	(相拟生田)				規格救急車更新											
-					入札減			-								
					ノヽヮしが失											
	実績との比較 (増減理由)															
	(4日/火生田)															

Ħ	自標の指	移・	評価														
7	5動指標	[1 (「手段」をもとに設定)	指標名:消防車	両更新等台数		指標の求め方:更	更新及び増強した	消防車両の台数								
万	文果指 標	[1 (「成果」をもとに設定)	指標名:消防車向	両更新等台数		指標の求め方:更	更新及び増強した	消防車両の台数								
						3 力年計画				3 カ年計画				3次実施4力年記			第 7 期
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
	指		動指標 1 計画値 単位/台) 実績値	0	1 0	1 1		1 0	1	1		1	1	1	0		
	標	ルスラ	果指標 1 計画値		1	1		1	1	1		1	1	1	0		
		_	^{単位/台)} 実績値 業の達成度	0	0	1		0									
		(活	動指標をもとに評価)				達成されていない										
		(成	果指標をもとに評価)				上がっていない										
			業の効率性 業費に対する成果)				上がっていない										
		総合	今評価				普通である										
	事務事業評価	i I	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	は定い障く送ししな新が幅になった。というでは、からいでは、からいでは、からいでは、からいでは、がいいでは、がいいでは、がいいでは、がいいでは、がいいでは、がいいでは、がいいでは、がいいでは、からいでは、いらいでは、いらいでは、いいでは、いらいでは、いらいでは、いいでは、い	由当かえ劣るの援ら能しし際苦散動は制と両ら3歳らて化が状車延でたかの慮見と地になで、1年3日が東京の時間であるなり、1年3日が東京の時間で終了を発売していた状車延でたかの慮見と地になる。1年4年、確両他状用と 修調事るよめで重る両側を終了する。1年5日で終了する。1年5日では、1年5日には、1年5日では、1年5日では、1年5日では、1年5日では、1年5日がは、1年5日では、1年5日には、1年	あに度よる確認の判し定教頻教化らたる資当幅が二サである確認の利し定教頻教化らたる資当幅が二時間を経過である。 大く経化詳部考して経代計の表に表して経化詳の表にをして経代がある。 大くとは過ば細品慮用。度た最く材い実高体高器しを価本の画額と地高を検がしているのである。 大大た 急 一般 できる から しょう かい まに、大た 急 不 を かい まん はん かい まん はん いい まん はん		たつ時え過消上短間外に見れている。 大い期で年間では、く題後されば大いないないのででは、大い間では、大い間では、大い間では、は、年間では、大い間では、大い間では、大い間では、大い間では、大いに、大いに、大いに、大いに、大いに、大いに、大いに、大いに、大いに、大いに		自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今征	後の方向性				現状のまま継続										
	改	善、改	判断理由 革 <i>の</i> 内容 、R10)	が、車両の状態: 虚し、逐一更新: 令和4年度更新: 能であると判断: 救急車」を更新:	経 を を を を を を を を を を を を に に に に に に に に に に に に に	度や防災体制上の 方向性である。 型水槽車」にあっ 5年度は当初計画 る。	位置づけ等を考 ては延命使用可 iどおり「高規格	R8 :				R10 :					

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	水難・水害教	助資器材更新	f事業		事業期間	令和:	3年度 ~ 令	和8年度						<u> </u>
事業性質区分	新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-2	他に関連する 基本事業						所管課係	警防課消防係
目的 (何のために実施するのか)	水難事故・水害~	への対応に係る資	器材の充実強化を[図る。				手段 (どのような方法で 実現するのか)	現在使用中の資料	器材について上体	を詳細に観察し適	動切な更新を継続す	-る。	
対象 (誰・何を対象として いるのか)	一般市民、来訪都	等						成果 (どのような効果が 得られるのか)	水難事故・水害へ	への対応強化。				
事業開始時の状況 緯	・これまでの経	多発する集中豪雨	雨による災害及び管	管轄する1級河川	である石狩川や遊水	k地での災害に	-対応するため、入:	水活動用のドライス	スーツ等の乗船隊	員装備品並びに船	分外機、ゴムボー	ト本体の更新を計	画する。	

[DO]

実績

					第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4力年記	十画		第 7 期
				第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年合計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次(8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
	Τœ	費	計画額	(3年度)	(4年度)	(5年度)	П	(0千度)	(/年度)	(8年度)	I III	(9年度)	(10年度)	(日年度)	(12年度)	п п	
	国	貝	予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	道	費					0				0					0	0
	坦	貝	予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地	方 債					0				0					0	0
	1	刀 良	予算計上額				0				0					0	0
投			実績額				0				0					0	0
入	そ	の他					0				0					0	0
	`	الة الالا القال	予算計上額				0				0					0	0
さ			実績額				0				0					0	0
れ	_ s	と 財 源		444, 000		484, 000	928, 000			829. 000	829, 000					0	1, 757, 000
70	,	~ / / / //	予算計上額	444, 000	869, 000		1, 313, 000			020,000	020,000					0	1, 313, 000
た			実績額	443, 300	834, 900		1, 278, 200				0					0	1, 278, 200
事	事業	費合計		444, 000	0	484, 000	928, 000	0	0	829, 000	829, 000	0	0	0	0	0	1, 757, 000
尹		~	予算計上額	444, 000	869, 000	0	1, 313, 000	0	0	020,000	0	0	0	0	0	0	1, 313, 000
業			実績額	443, 300	834, 900	0	1, 278, 200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1, 278, 200
				備品購入費	備品購入費	_	1, 2, 2, 2, 2		_	_	_	_	_		_		1, 211, 211
費				444, 000円	869,000円												
の	事業:	費予算の 内容															
		770															
推																	
移					隊員用入水装備	R5計画事業をR4 に繰上実施した											
19	前年	度予算と		トーハツ MFS20E-L	更新 ドライスーツ等	に裸工美胞した											
)比較 減理由)		0202 2	乗船隊員5名分	2 21401 7 11%											
	(20)	火生田/															
				ほぼ同額	入札減	R4事業実施済											
				はは凹版	八七加头	み及びR5事業											
	実績 (地	との比較 減理由)				計画無しのため											
	(*8)	/ х- ±ш/				渺											
					<u> </u>				<u> </u>			I			<u> </u>		

ŧ	目標の	推移	・評価															
ž	舌動指:	標 1	(「手段」をもと	に設定)	指標名:水難救師	劫資器材更新数		指標の求め方:更	夏新した水難救助	資器材の数								
J.	 发果指:	標 1	(「成果」をもと	に設定)	指標名:水難救助	助資機材更新数		指標の求め方: 更	夏新した水難救助)資機材の数								
						第1次実施	103カ年計画			第2次実施	拖3力年計画			第	3次実施4カ年記	計画		第 7 期
					第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年合計	総合計画合計
		指	活動指標 1 (単位/基)	計画値 実績値	<u>1</u> 1	0	1 0)	0	0	1	1	0	0	0	0		
		1385	成果指標 1	計画値	1	0	1		0	0	1	1	0	0	0	0		
			(単位/基) 事業の達成度	実績値	1	1	0	_	0	1							 	
			事業の達成及 (活動指標をも 事業の成果	とに評価)				達成されている										
		L	(成果指標をも	とに評価)				上がっている										
			事業の効率性 (事業費に対す	る成果)				上がっている										
			総合評価					極めて良好である										
	務「	評価内容	理由ま	平価の判断 または指標 責値に関す	た簡入り製機能動等に 船所用、の種向時間、 の種の時間、 の種の時間、 の種の時間、 の種の時間、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 の種の時間が、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので	たはも等る画期に及びよいではも等のこ時に及びよいがらり、も変のでは、大がらり、も変のでは、大がらり、も変の害にないが、も安の害いが、も安の害いが、も安の害いが、も安の害いが、も安の害いが、もないが、もない。	予ラ計でを強いた更の和しとの情報の相しとの情報の利しとの情報の利しとの情報の利しとの情報の利しとの情報の相にも、制金をは、一般を表していません。	第にド整全の大学を全の大学を全の大学を全の大学を全の大学を全の大学を主の大学を主の大学を主の大学を主の大学を主の大学を主の大学を主の大学を主	定ボ新況してなで、 さ一にを、備いあいがをこる い体のも判制さきとと はいかのでないとが考え では、できる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
			 今後の方向性					現状のまま継続										
					R5:	9.++ <i>t</i>		- サーウン 南 42 円	R8 :			-	R10 :				<u> </u>	
	改	文善、	∈の判断理由 改革の内容 R8、R10)		えられ、作業効理 出来る。資器材1	器材を使用するこの 車経年劣化し、 全性の確保をする。	上し、災害対応に 全性が低下してい	に集中することが いくことから、今										

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 O

事 業 名	消火栓設置事	業			事業期間	平成	23年度 ~ -	- 年度					•	<u> </u>		
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	2-5-2	他に関連する 基本事業						所管課係	警防課消防係		
目的 (何のために実施する のか)	消防体制の充実及	なび強化を図る。						手段 (どのような方法で 実現するのか)	_{どのような方法で} │水利不足地域に消防水利の基準に応じて、計画的に消火栓を設置する。							
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市内の消防水利不	足地域。						成果 (どのような効果が 得られるのか) 消防水利不足地域における水利が確保される。								
事業開始時の状況緯	・これまでの経	消防水利について なお、エリア的に	ては、火災の発生時 こ重複している老杯	に速やかに消り 化した箇所や、	く活動を行えるよう 住宅地の変遷等に	配置を行って より不要とな	きた。平成12年に改 った箇所は、改修せ	(正された「消防力 ∵ず撤去してくこと	の基準」によると も考慮する。	と、当市の既存消	坊水利数は基準数	に達しておらず、	不足地域へ計画的	的な新設を要する。		

[DO]

実績

						第1次実施	3 力年計画		第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					
					第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年合計	第4年次(6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次(8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年合計	第 7 期 総合計画 合 計
	围		費	計画額	(0年度)	(4年度)	(3年度)	0	(0+12/	(7年度)	(0年度)	0	(3千尺)	(10年度)	(日午及)	(12年度)	0	0
			~-	予算計上額				0				0					0	0
			-	実績額				0				0					0	0
	道		巷	計画額				0				0					0	0
			~-	予算計上額				0				0					0	0
			-	実績額				0				0					0	0
	地	方	債	計画額	1, 300, 000	1, 300, 000	1, 300, 000	3, 900, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	3, 600, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	4, 800, 000	12, 300, 000
+л.	1 -	,,	\^ -	予算計上額	1, 300, 000	1, 200, 000		3, 800, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	2, 400, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	1, 200, 000	0, 000, 000	6, 200, 000
投			-	実績額	1, 200, 000	1, 200, 000		3, 500, 000	1, 000, 000	1, 200, 000		1, 000, 000					0	4, 500, 000
入	そ	Ø	他	計画額	1,200,000	1, 200, 000	1, 100, 000	0,000,000	1, 111, 111			0					0	0
	1	•,	"-	予算計上額				0				0					0	0
2			-	実績額				0				0					0	0
ħ	- 1	般 財	源	計画額	23, 000	23, 000	23, 000	69, 000	39, 000	39, 000	39, 000	117, 000	39, 000	39, 000	39, 000	39, 000	156, 000	342, 000
			-	予算計上額	23, 000	93, 000		144, 000	39, 000	73, 000	,	112, 000		,	,	,	0	256, 000
た				実 績 額	3, 400	11, 000	40, 700	55, 100	87, 900	,		87, 900					0	143, 000
事	事業	美費 合	計	計画額	1, 323, 000	1, 323, 000	1, 323, 000	3, 969, 000	1, 239, 000	1, 239, 000	1, 239, 000	3, 717, 000	1, 239, 000	1, 239, 000	1, 239, 000	1, 239, 000	4, 956, 000	12, 642, 000
7				予算計上額	1, 323, 000	1, 293, 000	1, 328, 000	3, 944, 000	1, 239, 000	1, 273, 000	0	2, 512, 000	0	0	0	0	0	6, 456, 000
業				実 績 額	1, 203, 400	1, 211, 000	1, 140, 700	3, 555, 100	1, 087, 900	0	0	1, 087, 900	0	0	0	0	0	4, 643, 000
200-					消火栓新設委託	消火栓新設委託	消火栓新設委託		消火栓新設委託	消火栓新設委託								
費			~ ~		料 100 000円	料 1 007 000円	料 1 000 000円		料 000 000円	料 1 000 000円								
の		費予算 内容	早の		1,102,200円 本体備品購入費	1,067,000円 本体備品購入費	1,080,000円 本体備品購入費		986,000円 本体備品購入費	1,009,000円 本体備品購入費								
					220,000円	220,000円	248,000円		253,000円	264, 000円								
推																		
移					設置位置の工事 区分の差異		設置位置及び 消火栓本体単価		設置位置及び 消火栓本体単価	設置位置及び								
12		度予算			とカの を 兵 消火栓本体価格	区ガの左共	の違い		の違い	の違い								
		の比較 減理日			変動													
	(78	1//94-12	4/															
					委託料の減	見積り減	見積り減		見積り減									
	± 4±	: L. A.L	la ##		2001107#2	56 JR 7 #X	76 JR 7 #X		56 JR 7 #%									
		とのは減理は																
	1																	

方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)

指標の推移・評価

THE PROPERTY.																		
活動指	活動指標1(「手段」をもとに設定) 指標名:消防水利数						指標の求め方:消火栓数+防火水槽数											
成果指	成果指標 1 (「成果」をもとに設定) 指標名:消防水利充足率						標の求め方:水利数÷基準水利数×100											
				第1次実施	3カ年計画			第2次実施	3 カ年計画			第 7 期						
			第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次(8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計		
	活動指標 1	計画値		314	315		316	317	318		319	320	321	322				
	省 (単位/基)	実績値	312	313	314		314											
	票 成里指煙 1	計画値	75	76	76		77	77	77		78	78	78	78				

				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
		活動指標		313	l	315		316	317	318		319	320	321	322		
	指標	(単位/基	人根框	312		314 76		314 77	77	77		70	70	70	70		
	175	成果指標 1		75 72	{	76 72		77	77	77		78	78	78	78		
		事業の達成	人根但	12	12	12		12									
			をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成界					少し上がっている										
			をもとに評価)				少し上からている										
		事業の効率	率性 :対する成果)				上がっている									j !	
			.対する成本/				***7										
		総合評価		自己分析:	自己分析:	自己分析:	普通である 判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
				水利不足地域に	新たに水利不足	新たに水利不足	充足率について	新たに水利不足	日口万机:	日已分析:	刊断理田:	日口万机:	日已万利:	日已万初:	日口万机:	刊断理田:	
				新たに消火栓を	地域に消火栓 1	地域に消火栓 1	は横ばいである	地域に消火栓1							1	j	
				整備することは計画的に達成で	基を計画的に整備し 当該地域	基を計画的に整備し 当該地域	が、消火栓自体 の信用度は格段	基を計画的に整 備 上 当該地域							1	,	
				きており、充足	の火災発生に万	の火災発生に万	に上がってお	の火災発生に万							1	,	
				率を上げること により当該地域	全を期する事が	全を期する事が	り、設置場所に	全を期する事が							1	,	
事				の火災発生に万	五米る。	出来る。	あっても市内住 宅密集地の変動	四米る。 消火枠1基が新							1	,	
7	評			全を期すること			等の情勢に合わ	設となったが、							1	,	
	価			が出来る。			せ、更新整備出 来ている。	既設防火水槽1 基が使用廃止と							1	,	
務	内							なったため、市							1	,	
	容		総合評価の判断					内水利総数は前							1	,	
事		理の	∄由または指標 ○実績値に関す					年度同数とな る。							1	j	
			6自己分析					0.							1	j	
業															1	j	
_															1	j	
															1	j	
評															1	j	
															1	j	
価															1	j	
															1	j	
															1	,	
															1 "		
		今後の方向)性				現状のまま継続										
		7 D. 47 / J P	712	R5 :			20 P. 42 O. O. WE 196	R8 :				R10 :				<u> </u>	
	目に見える充足率の向上は図れなかったが、水利不足地域に対し業										l						
	たな消火栓を計画的に設置する事が出来、また老朽化している消火																
	栓に関しても計画的に整備されていることから、今後も終 とで災害時の不測の事態を问避し、万全を期する事が出来																

とで災害時の不測の事態を回避し、万全を期する事が出来る。

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 × 過疎計画掲載 ×

事 業 名	救命講習拡充	芒事業			事業期間	平成	23年度 ~ -	- 年度						
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外		第7期総合計画 の位置付け	2-5-3	他に関連する 基本事業						所管課係	救急通信課救急係
目的(何のために実施するのか)	救命率の向上に 報活動を実施し 救命の連鎖を図	、二人に一人の市	の普及・拡充の為 民が有効なバイス	に、各事業所や教 タンダーCPRの担	- 敗育機関、町内会等 !い手となることを	Fの地域自治組 目標に掲げ、恒	織への積極的な広 ≣常的かつ有効的な	(どのような方法で実現するのか)	広報誌や地方紙、 市内教育機関、	団体、地域奉仕団 HPを利用した宣 高齢者福祉施設を 計年度任用職員の	伝活動及び、市内 対象とした、直接	事業所へのチラシ	・ポスター配布。	
対象 (誰・何を対象としているのか)	砂川市在住者、	各事業所、教育機	関、高齢者福祉施	設				成果 (どのような効果が 得られるのか)	多数の地域住民が CPRが可能となる る。	が救命講習を受講 他、具体的な受請	することにより、 靖者数増加をPRし、	救命率向上に大き 救命率の高い魅	く寄与する心停. カあるまちとして	上初期での有効なバイスタンダー 地域住民に安心と信頼を提供でき
事業開始時の状緯	況・これまでの経						れに伴い救命講習も 極的に行い、救命率			忘急手当の普及活動	動の推進に関する	要綱」が制定され	たことにより、『	早期の応急手当が救命率の一層向上

[DO]

実績

					第1次実施	3 力年計画		第 2 次実施 3 カ年計画				第3次実施4カ年計画					
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	第 7 期 総合計画 合 計
	国	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実 績 額				0				0					0	0
	道	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実 績 額				0				0					0	0
	地	方 債					0				0					0	0
投			予算計上額				0				0					0	0
_			実績額				0				0					0	0
入	そ	の他	計画額				0				0					0	0
さ			予算計上額				0				0					0	0
			実 績 額				0				0					0	0
れ	-	般 財源	計画額	33, 000	33, 000		99, 000	33, 000	,	33, 000		33, 000	33, 000	33, 000	33, 000	132, 000	330, 000
た			予算計上額	33, 000	33, 000	33, 000	99, 000	33, 000	,		66, 000					0	165, 000
12			実績額	33, 000	33, 000	33, 000	99, 000	33, 000			33, 000					0	132, 000
事	事業	美費 合計		33, 000	33, 000	33, 000	99, 000	33, 000	,	33, 000	99, 000	33, 000	33, 000	33, 000	33, 000	132, 000	330, 000
			予算計上額	33, 000	33, 000	33, 000	99, 000	33, 000	33, 000	0	66, 000	0	0	0	0	0	165, 000
業			実績額	33, 000	33, 000	33, 000	99, 000	33, 000	0	0	33, 000	0	0	0	0	0	132, 000
費の推	事業	養予算の 内容		救命講習開催用 消耗品費	救命講習開催用 消耗品費	救命講習開催用 消耗品費		救命講習開催用 消耗品費	救命講習開催用消耗品費								
移		度予算と の比較 記滅理由)				前年度同様			前年度同額								
	実績(増	をの比較 記理由)		同額	同額	同額		同額									

指標の推移・評価 活動指標 1 (「手段」をもとに設定) 指標名:救命講習 指標の求め方:普通救命講習、上級救命講習、救命入門コースの実施回数																	
汨	5動指標	1 (「手段」	」をもとに設定)	指標名:救命講習	99 E		指標の求め方:普	予通救命講習、上	級救命講習、救命	入門コースの実施	施回数						
反	 、果指標	1 (「成果」	」をもとに設定)	指標名:救命講習	習受講者		指標の求め方:普	ř通救命講習、 上	級救命講習、救命	入門コースの実施	拖者数						
					第1次実施	3 力年計画			第2次実施	3 カ年計画			第	3次実施4力年記	十画		第 7 期
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
	指	活動指標 (単位/		30 1	30	30 11		30 17	30	30		30	30	30	30		
	標	成果指标		650		{		650	650	650		650	650	650	650		
		(単位/	八根に	31	182	181		217									
			標をもとに評価)				あまり達成されていない										
		事業の原(成果指	成果 「標をもとに評価)				あまり上がってい ない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果) 総合評価						あまり上がってい ない										
							問題がある										
	事務事業評価		る自己分析	かウ拡昨全を期た校でしコ学育屋がめは業がを染よに措かく大年で実まがでWた一大館や整開出所出見ないます。 型ス止引救可延石接B急を教のッてすた環ずっ状、すま型ス止引救可延石接B急を教のッてすた環ずっ状、すま型ス止引救可延石接B急を教のッてすた環ずっ状、すまは、当時では、大きない。 は、大きない、大きない。 は、大きない、大きない。 は、大きない、大きない。 は、大きない、大きない、大きない。 は、大きない、大きない、大きない。 は、大きない、大きない。 は、大きない、大きない。 は、大きない、大きない。 は、大きない、大きない。 は、たちない。 は、 は、たちない。 は、たちない。 は、たちない。 は、たちない。 は、たちない。 は、たちない。 は、たちない。 は、たちない。 としない。 は、たちない。 は、たちない。 は、たちない。 と、もない。 は、たちない。 は、たちない。 と、もない。 と、もない。 と、もない。 もない。 と、もない。 と、もない。 もない。 もない。 もない。 もない。 もない。 もない。 もない。	旬ナるのき急能期山年る館換急実医い脳のた建て実ずし報肺から整から整路と中度こで気入施大工を講。設は技にての蘇弥小抵昨全を期た校閉か離実コそ医物にを川会触導急1り法ら今於かき窓は大区では、和と体取し、他を用い施校つは講多方に大時にて寒症が令校らを施一の断乱つ実高にしは講多方にない。 和と体取し、他を用い施校つは講多方にはは第9方にない。	ル行り康シごる人講再手にるすあしのい認行たしに実施した。 一理事に習開当事ぐり知再、定う、て繁施とした戦争にい所す受た良さ所問習及認良のと後命るてが、 いか、 は、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない	判新スリが救しのあ務齢ルめあ救了なが関でスし講来た中留がたい、経済のにら々動高の大で、終来境校トーは放出、またと、日本の大きに、一切、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	ルを講通「講でそ事当定教技行ま度りた業み習え 保留物実数あの業優の命術った、事市患のに及った。 にいる、回習延7。20業を議確 2に所援りを がしまた、に事新知再。令廃に等損り認 といる、回習延7。20業を議確 2に所援し礎審別に、に本職で表議で が、である。 の手記いびを 年よつ事込講査証	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今後のフ	方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		した。健康チェッかけて広いスペー 習希望の問い合物の出来なかった	・ルスが5類に移行出いるが5類に移行出で入り、一次のシーのでである。 関に提出をしています。 関係できるて事業所を実施しています。 いいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいい	や一度に講習可能 ことを条件に実施 いることから今ま 習を行っている。	だな人数に制限を 近しているが、講 で開催すること 今後も継続して	R8 :				R10 :						